



ぐんまのたからもの

Part 3 - ①
10月26日(土)～
11月28日(木)

「ぐんまのたからもの」とは……

来館者の皆さんは「ぐんまのたからものって何がある？」と聞かれたら、何を思い浮かべますか。豊かな自然景観をはじめ様々な答えがあがると思います。現在、群馬県では、富岡製糸場をはじめとした絹産業遺産群の世界遺産登録を目指しています。また、昨年には甲を着た古墳人が発掘されるなど、文化財に対する関心やその保護・保存の機運が高まっています。

今回のコーナー展示は、「こもんじょ☆くずし字☆セレクション」と題しまして、文書館収蔵資料の中から、かな文字で書かれた資料に焦点を当てご紹介します。

こもんじょ☆くずし字☆セレクション I 直筆・版本から読むかな文字

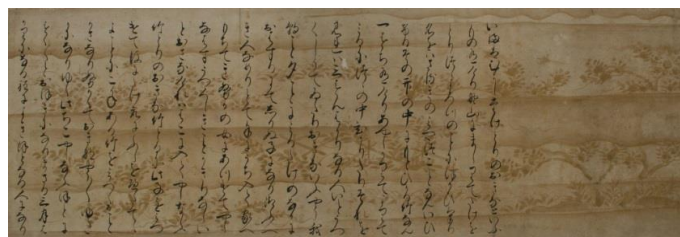
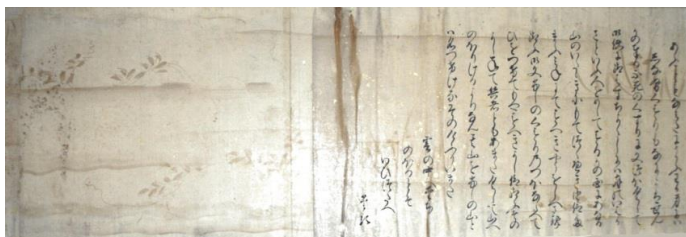
いささか大げさではありますが、くずし字は世界に誇れる文字ではないでしょうか。

とりわけ、かな文字は、日本独自の文字であり、千年を超える歴史を有しています。

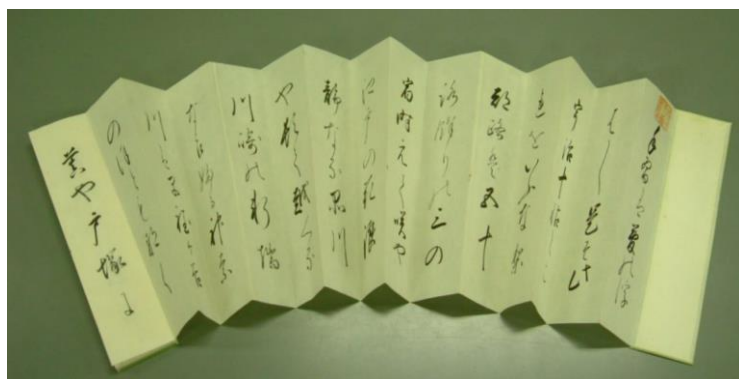
文書館の収蔵資料の中には、くずし字で書かれた古文書などの歴史史料や、印刷出版された本などのほかに、御札や広告、新聞などのあらゆる資料が含まれています。

収蔵資料を整理し、目録を作成していくなかで、多種多様な資料と出会います。上州や上野国と呼ばれていた時代から、明治・大正・昭和の時代にかけての地域や家の歴史、文化の諸相を知る手掛かりとなる資料群です。

資料を読み解くことは、地域の文化(在村・在町文化)を見直し、理解する上での手掛かりとなるのではないのでしょうか。



(『竹取物語』(伝橋守部筆)、吉田家文書、P9301/801)



(手習本(田村梶子書)、吉田家文書、PF9801/402)

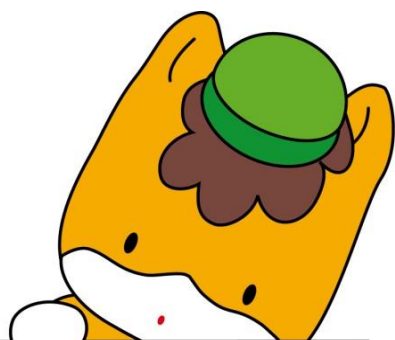
群馬県立文書館(もんじょかん)
〒371-0801
群馬県前橋市文京町3丁目27-26
電話 027-221-2346 Fax 027-221-1628
ホームページ <http://www.archives.pref.gunma.jp/>

● 展示史料目録

No.	史料名	年代	文書番号
1	竹取物語(伝橋守部筆) ※閲覧・コピーは複製から	江戸時代後期	P9301-801
2	手習本(田村梶子書) 「東海道往来」より、日本橋から大井川まで	江戸時代後期 (天保期)	PF9801-402
3	東海道往来(刊本) 日本橋から京都まで	江戸時代	P8408-1628
4	久佐麻久良(くさまくら、刊本) ※コピーは複製から	明和年間 (1764~1772)以降	P1103-462
5	源氏物語(刊本)		
	「若紫の巻」(光源氏の若紫垣間見の場面)	江戸時代	P09303-77-3
	「須磨の巻」(光源氏須磨へ流離)	江戸時代	P09303-77-4
6	学問のすゝめ(学問ノスゝメ)		
	「かな版」	明治5年刊	P9201-16283
	「真片仮名版」	明治7年刊	P8314-65



(久佐麻久良(くさまくら、羽鳥一紅編)は全文紹介します。土屋家文書、P1103-462)



今後の展示予定

12月1日(日) ~ 1月9日(木)

こもんじょ☆くずし字☆
セレクションⅡ

※一部の資料を入れ替えます

(題箋)

「久佐麻久良(くさまくら)」

明和てふとしの葉月、父のうせたるに
さとにゆきて、こもる朝ゆふ問ひ来る
友かきに、あとハれて善光寺の弥陀仏に
まうてんとゆくりなく道たちす

西へ入る月をしたふて草まくら 一紅
一紅おとめにさそハれて
菅笠にならへて月の影おかし 柳旨

「久佐麻久良(くさまくら)」は、羽鳥一紅(はとりいっこう)が俳句仲間
の柳旨(一紅の姉)・芙白・和青の三人とともに、父の菩提を弔う
ために、善光寺への参詣の旅を、紀行句集としてまとめた一冊です。